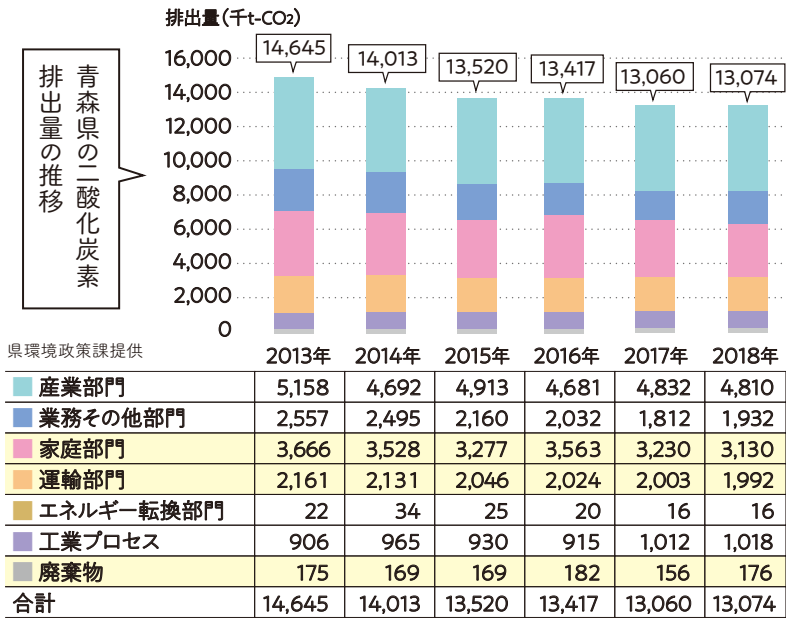




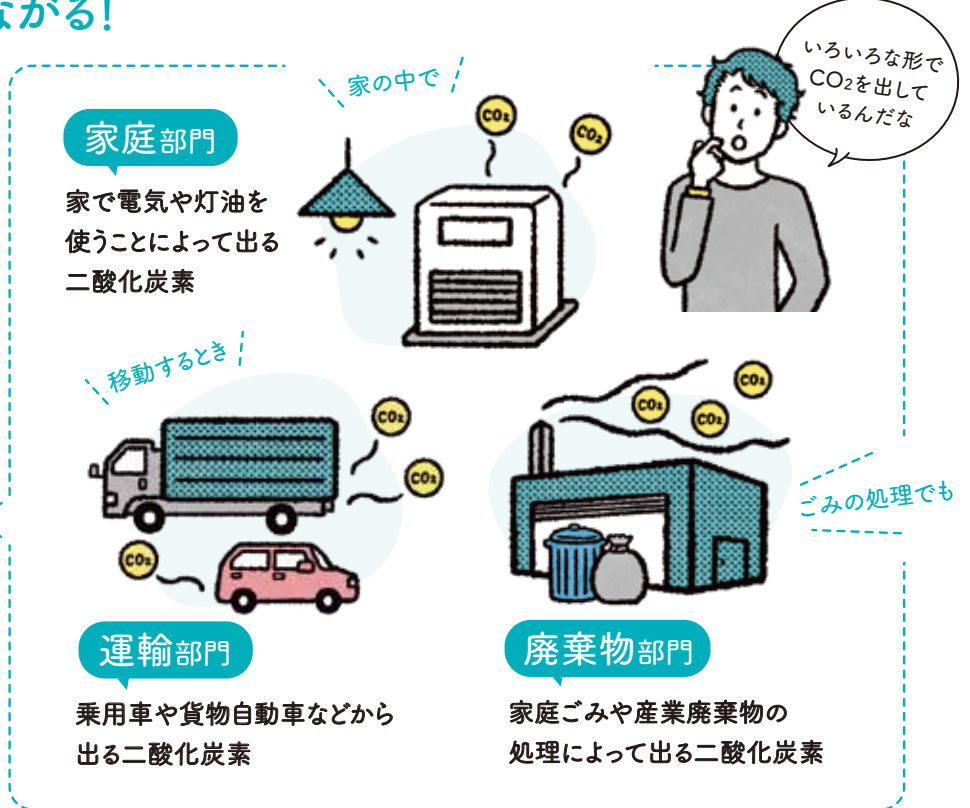
私たちの暮らしの中にも原因があるの？

# 3 地球温暖化と私たちの暮らしの関係について知ろう

暮らしを変えれば地球温暖化の防止につながる！



1年間に排出される二酸化炭素の量を部門別に見てみると、青森県は2013年以降、暮らしとの関わりが大きい部門は少しずつ減ってきてはいますが、まだまだ改善する必要があります。地球温暖化を食い止めるため、私たちの暮らしを見直してみましょう。



まずは身近な「ごみ」問題について考えよう！

# 4 もっとリサイクルしたくなるクイズ～資源をきれいにまわそう！～

## あおもり日和

Vol.6 知らなかった！ペットボトルのその後



長谷川 ちひろさん  
(デザイナー・イラストレーター)  
弘前市出身。高校卒業後上京。武蔵野美術大学卒業後、デザイン事務所にてエディトリアルデザイナーとして7年間勤務。結婚を機に、2018年青森へUターン。現在はフリーランスで活動中。

**Q1** 青森県の1人1日あたりのごみ排出量は？  
①603g ②803g ③1,003g

**Q2** 段ボールの原料として使用される古紙の割合は？  
①50% ②70% ③90%以上

**Q3** PETボトルのリサイクル率はどのくらい？  
①46% ②66% ③86%

**Q4** 1本のガラスびんに含まれる再生原料(カレット)の割合は？  
①15% ②25% ③75%

答え

**A1** ③1,003g (2019[令和元]年度)

- 青森県の1人1日あたりのごみ排出量(一般廃棄物)は1,003g。令和7年度までに940gまで減らすことが目標です。
- リサイクル率は14.3%。分別にもしっかり取り組み、ごみを減量する必要があります。

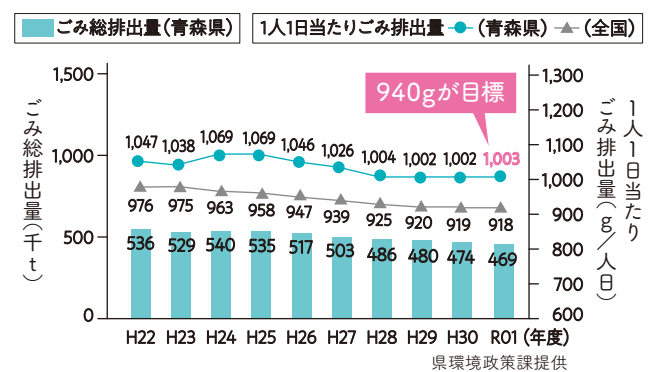
**A2** ③90%以上

- 段ボールの原料は、古紙が90%以上。使い終わった段ボールは再び段ボールに生まれ変わります。
- さまざまな紙を作るためには、古紙を分別して種類をそろえる必要があります。
- 1ℓの紙パックをリサイクルすると、23.4gのCO<sub>2</sub>削減につながります。

**A3** ③86%(2019年)

- PETボトルは単一のプラスチック素材なのでリサイクルに向いています。
- 使用済みPETボトルから再びPETボトルを作るBtoB(ボトルtoボトル)の取り組みも進んでいます。
- PETボトルをリサイクル・再利用することで、CO<sub>2</sub>総排出量は約40%削減されています。(2018年)

ごみ総排出量と1人1日あたりのごみ排出量の推移



**A4** ③75%(2017年)

- 空きびんは、細かく砕かれたカレットに加工され、再びガラスびんに生まれ変わります。
- カレットを原料として使うと天然資源が節約できるだけでなく、エネルギーも節約できます。カレット使用率を10%増やすと、約2.5%の省エネルギーにつながります。
- 洗って繰り返し使えるリターナブルびんは環境に最もやさしい容器です。こすれキズは何回もリユースされた勲章です。

「ごみ」を燃やすときに発生する二酸化炭素も、地球温暖化の要因のひとつです。



「ごみ」を減らす=発生する二酸化炭素が減る=地球温暖化防止につながる！